

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第25回

中部森林管理局総務課

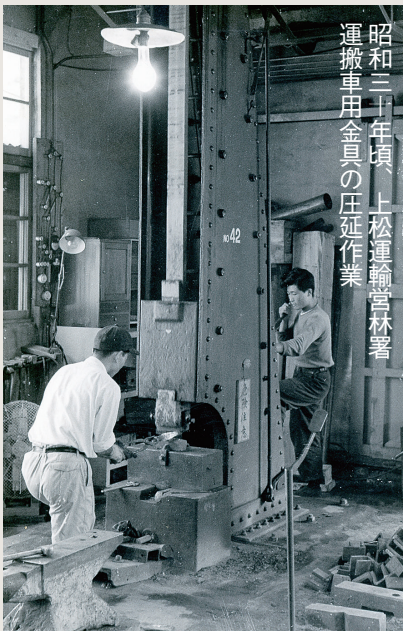
井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「修理工場」

大正時代頃から林業の機械化が徐々に進み、集材機、森林鉄道、トラック、チェーンソー、草刈機といったものが使われるようになっていきます。しかし林業用機械の運用にはそれを修理・メンテナンスする体制が不可欠です。現代なら民間の工場に修理を頼むことが出来ますが、国有林の事業が行われている山間地域において、かつてそれを求めるのは難しいことでした。このため帝室林野局や営林局が自ら運営する修理工場が存在していました。

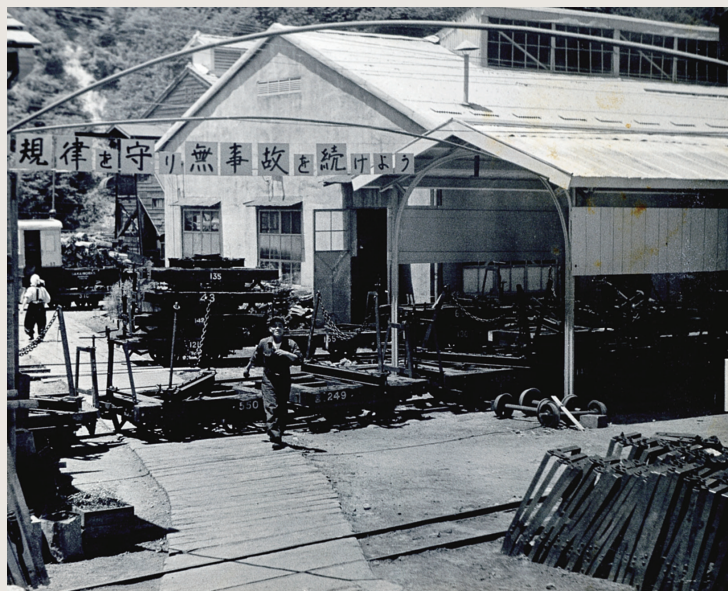
昭和三十年頃、上松運輸営林署
運搬車用金具の圧延作業



昭和初期頃、帝室林野局木曾支局上松出張所の機械修理工場内部

特に長野県上松町にあった上松運輸営林署には、ここが地域の森林鉄道の中心地であったこともあり、大きな工場が置かれていました。機械修理工場や自動車修理工場のみならず、部品の多くも自ら作る必要があったので、

鋳物工場や木工場、溶接鍛造工場なども設置されていました。上松運輸営林署の工場群は他地域の営林局からの依頼も受ける程の規模のものでしたが、森林鉄道の廃止などもあり時代とともに縮小していきました。



昭和30年頃、上松運輸営林署の検車工場前の風景

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。当サイトへは、コードを読み込んでください。

